

2020 年度

「グローバル人材育成のための

日本語学校留学生に対する日本語教師初任者研修カリキュラム開発事業」

研修レジюме

ヒューマンアカデミー株式会社

ガイダンス

開講前

01. 開講式
02. 教育課程の検討委員会 代表 挨拶
03. ヒューマンアカデミー日本語学校 東京校 校長 挨拶
04. 本研修の研修理念・研修目標・研修方針の共有
05. 研修の進め方
06. 研修のスケジュール確認
07. 各回の活動記録フォーム紹介
08. 評価方法・ポートフォリオの説明
09. 研修修了要件の説明
10. 成果他者評価の説明
11. OJT の進め方の説明
12. その他（災害時・保険他）
13. 自己紹介（全体・グループ）

【配布資料】

研修日程表

教材

ファイル

受講証

受講案内「スクールガイド」

日本の留学生受け入れ施策

VOD

1

【ねらい】

- ・ 在留資格「留学」に関する基礎知識と、在留管理における注意点を理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

＜キーワードの確認＞

- 日本語教育機関の告示基準 在留資格「留学」 在留管理 在留期間更新

＜考えよう／振り返ろう＞

1. 「日本語教育機関の告示基準」とは何ですか。
2. 「在留管理」とは何をすれば良いのでしょうか。
3. 「留学」の在留期間を更新するために必要な条件は何ですか。

【講義】

日本語教育機関の告示基準を理解し、留学生を対象とした日本語学校の教員として知っているべきことを確認する。

＜内容＞

1. 日本語教育機関の告示基準
2. 在留資格「留学」
3. 在留管理
4. 在留期間の更新

【活動】

1. 「日本語教育機関の告示基準」各項目の詳細について考えよう。
2. 入学に必要な書類について考えよう。
3. 資格外活動についてどのように管理したら良いのでしょうか。

【資料】

出入国管理及び難民認定法、出入国管理及び難民認定法施行規則
日本語教育機関の告示基準、日本語教育機関の告示基準解釈指針

法務省告示日本語教育機関の歴史と現状

VOD
2

【ねらい】

- ・ 日本における日本語教育機関の歴史を知る。
- ・ 日本語教育機関とそれを取り巻く社会情勢の現状を知る。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 留学生30万人計画
- 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策
- 日本語教育推進法
- 技能実習生
- 特定技能

<考えよう／振り返ろう>

1. 日本に留学生が来るようになったのはいつ頃からだったでしょうか。
2. 現在、日本にいる留学生は何人ぐらいでしょうか。

【講義】

日本語教育機関の歴史を知り、現在の日本語教育機関に求められていることを理解する。特に、近年の日本語教育に対する日本社会の動向、法改正、施策を理解する。

<内容>

1. 留学生の受け入れ
2. 外国人留学生急増
3. 新たな外国人受け入れ体制

【活動】

1. 日本語学校と日本語教師の存在意義とは何か。
2. 日本語学校で働くことの価値について考える。

自己点検

VOD
3

【ねらい】

- ・ 日本語教育機関(告示校)の自己点検の内容、手法を理解できる。
- ・ 自分の授業について自己評価をすることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 日本語学校の告示基準による自己点検

<考えよう／振り返ろう>

1. 所属機関の自己点検にはどんな項目が挙げられていますか。
2. 教師が自己評価をする際、どのような項目が必要ですか。

【講義】

- ・ 日本語教育機関の自己点検の項目を理解する。
- ・ 日本語教師の講師評価の項目を理解する。

<内容>

1. 日本語学校の告示基準による自己点検
2. 日本語学校の外部評価・第三者評価
3. 教師の自己点検・評価

【活動】

1. 日々の授業の振り返りシートを作成する。
2. 日本語教師の評価シートを作成する。

著作権

VOD
4

【ねらい】

- ・ 著作権法を理解した上で、日々の授業をしたり、教材を扱ったりすることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 著作物 著作者人格権 複製権・譲渡権 著作権侵害 著作権の制限

<考えよう／振り返ろう>

1. 「著作権」と聞いて、どのような物やニュースを想像しますか。
2. 教材を作成するとき、どんな素材を使用していますか。
3. 他人の創作した絵や文章を使うとき、どのようなことに気を付けなければいけないと思いますか。
4. 他人の著作権を侵害すると、どうなりますか。

【講義】

著作権法で保護される著作物、著作権の権利など、他者の著作物を教材に使用するときの留意点を知る。

<内容>

1. 著作権を学ぶ理由
2. 著作物と著作者
3. 著作者の権利
4. 他者の著作物を教材に使用するときの留意点

【活動】

1. 教材に使用した各素材について、内在している著作権の問題の有無を考え、問題がある場合には問題を列挙し、どのような対策を行うかを検討する。

習得過程

VOD
5

【ねらい】

- ・ 第二言語習得の基本的概念が理解できる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 中間言語
- インテイク
- 明示的知識・暗示的知識
- 過剰一般化
- 正の転移・負の転移

<考えよう／振り返ろう>

1. 学習者の母語は、日本語の習得にどのような影響があると思いますか。
2. 学習者にとって習得が難しいのはどのような項目ですか。それは学習者の母語によって違いますか。

【講義】

第二言語習得の基本的概念を理解し、教師ができることを知る。

<内容>

1. 中間言語
2. 習得過程
3. 明示的知識と暗示的知識
4. 母語の影響

【活動】

1. 自分の外国語学習体験を内省し、どんな独自のルールを作っていたか考える。
2. 実在しない動詞のテ形について考える。
3. 母語による転移の違いを考える。
4. 授受動詞を例にして動詞のカテゴリー化について考える。

言語習得を促進する指導

VOD
6

【ねらい】

- ・ 第二言語習得理論に基づいて教育実践を考えることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

＜キーワードの確認＞

- 形式・意味・機能
- Focus on Form (フォーカス・オン・フォーム)
- 注意
- 気づき

＜考えよう／振り返ろう＞

1. 自身の外国語学習体験の中で、文法を教えられても使えるようにならなかった項目を思い出してください。それらの項目はなぜ使えるようにならなかったのだと思いますか。
2. 学習者の運用能力を養成するためには、どのような指導が必要だと思いますか。
3. 授業の中で、学習者のエラーにどのように対応していますか。

【講義】

フォーカス・オン・フォームとはどのようなことか理解し、習得理論に基づく指導、タスクとはどのようなものか考える。

＜内容＞

1. 「意味」から「形式」へ注意を向ける「フォーカス・オン・フォーム」
2. 習得を促進するために教師ができること
3. 第二言語習得の観点から考える教室指導

【活動】

1. 「形式」「意味」「機能」の意味を具体例から考える。
2. 「インプット」「文法知識」「アウトプット」「フィードバック」に関して授業で工夫していることを内省する。
3. インプットの与え方について考える。
4. リスニングタスクを体験する。
5. 様々なフィードバック方法について考える。
6. フィードバックの与え方について考える。

日本と海外の教育制度の違い

VOD
7

【ねらい】

・ 大学進学を念頭に、入試要項などの応募条件と留学生の学習歴に差異がないか、差異がある場合にはどのように指導したら良いかを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

義務教育期間 学年暦 出願資格事前審査 準備教育課程

<考えよう／振り返ろう>

1. 自身や家族、身近な人に海外の教育を受けたことがある人はいますか。
2. 日本とあなたの所属する日本語教育機関に在籍する留学生の母国の教育制度にはどのような違いがあるか知っていますか。
3. 日本と海外の教育制度が違うことにより、学習者にどのような影響が出るとおもいますか。

【講義】

学年暦(年度)、義務教育期間、初等・中等・高等教育(年数、資格、学位)など日本の教育制度と海外の教育制度について知る。

<内容>

1. 留学生が日本で進学するための条件。
2. 日本の教育制度
3. 海外の教育制度
4. 教育制度の違いで起こる問題
5. その他の制度：準備教育課程、国際バカロレア資格、アビトゥア資格

【活動】

1. 進学を希望する学習者にどのような進路指導やアドバイスがよいかを考える。

進路選択関連情報

VOD
8

【ねらい】

- ・ 留学生が日本での進路を考える上で必要な知識を理解し、進路先に合わせた進路指導ができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- JLPT（日本語能力試験）
- EJU（日本留学試験）
- 外国人留学生入試
- 資格外活動許可
- 在留資格
- キャリアプランニング

<考えよう／振り返ろう>

1. 日本語学校で勉強した学生は卒業したら、どうだと思いますか。
2. 日本の大学、専門学校の数はいくらあると思いますか。
3. 日本の高校生が進学するのと、留学生が進学するのではどんな違いがあると思いますか。
4. 日本語学校を卒業して、すぐの就職先としてどのようなところがありますか。

【講義】

進路指導に必要な知識を理解する。

<内容>

1. 留学生の日本での進路
2. 年間の主な進学スケジュール
3. 受験に必要な出願書類
4. 進学先別（大学、大学院、専門学校）の進路指導と面接指導
5. 留学生が進学のために受ける試験
6. 日本語学校からの就職

【活動】

1. 事例をもとに進学を希望する学習者にどのような進路指導やアドバイスをするか、具体的に考える。

留学生の異文化受容・適応（概論）

第1週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 自分の文化的価値観・先入観について意識化し、内省できる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 文化の定義
- 異文化理解の定義
- 色々なコミュニケーション方法
- 異文化間におけるコミュニケーション摩擦

<考えよう／振り返ろう>

1. 今までにどのような異文化と接したことがありますか。
2. 今までにどのような異文化間コミュニケーション摩擦を経験したことがありますか。
3. 日本文化とはどのような文化だと思いますか。

【講義】

文化とは何かについて改めて考え直し、日本社会における行動様式を振り返る。その上で、学習者の持つ価値観やコミュニケーションの方法について理解を深め、異文化間で起きる摩擦や受容について理解する。

<内容>

1. 文化の定義
2. 異文化理解
3. 異文化間摩擦が起きる理由

【活動】

1. 自分の価値観を知る

留学生の異文化受容・適応（ケース）

第1週

2時間目

【ねらい】

- ・ 異文化接触の観点から留学生を捉えることができる。また、その中で起こり得る問題とそれに対して教員がどのように関わっていくべきかを考えることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- カルチャーショック 異文化受容プロセス 異文化適応プロセス 異文化摩擦

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたが学習者から聞いた「カルチャーショック」はどのようなものですか。
2. 「日本文化・日本事情」の授業でどのようなことを扱っていますか。

【講義】

留学生が、どのように異文化を受容し、異文化に適応していくのか、事例を通してそのプロセスを理解する。

<内容>

1. 異文化受容プロセス
2. 異文化適応プロセス
3. 留学生と教師の異文化摩擦

【活動】

1. 異文化受容・適応プロセスをもとに留学生の事例を分析する。
2. 留学生と教師の異文化摩擦を事例を通して検討する。

日本語の学習・教育の情意的側面

第1週

3時間目

【ねらい】

・メンタル的側面を中心に留学生が抱える特有の問題を理解し、教師や教育機関としてできる範囲やその内容について理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

＜キーワードの確認＞

包括的サポート 安心安全な場づくり 発達障害 学習障害 LGBTQ

＜考えよう／振り返ろう＞

1. 留学生は日本でどんなことに悩んでいた、ストレスを抱えていたと思いますか。
2. 留学生から勉強以外のことで何か相談をされたことがありますか。その時、どうしましたか。
3. 留学生が安心・安全に勉強できるように何か配慮していることがありますか。

【講義】

留学生のメンタルヘルスの問題とそのケア、危機介入について知り、日本語教師としてできること、できないことやどこにつなぐべきかを知る。また、個人としての留学生に配慮し、安心・安全に日本語の勉強に取り組める環境づくりについて考える。

＜内容＞

1. 留学生が抱える悩み・ストレス
2. 留学生の支援
3. 日本語教師にできること、できないこと
4. 教師として配慮すべきこと①：発達障害、学習障害（発達性ディスレクシア）
5. 教師として配慮すべきこと②：宗教・民族・ジェンダー（LGBTQ）など人権にかかわること
6. 安心・安全な教室づくり

【活動】

1. 留学生支援において、日本語教師としてできることできないことを考える。
2. 安心・安全な教室づくりのために何ができるかを考える。

日本語教育プログラムの理解と実践

第2週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 教育理念をもとに指導指針、教育目標を理解し、授業実践ができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- プロフィシエンシー Can-do アクティブ・ラーニング ACTFL-OPI CEFR

<考えよう／振り返ろう>

1. 所属している日本語学校の教育理念、指導方針、教育目標を知っていますか。
2. 所属している日本語学校の学習者が日本語を学ぶ目的は何ですか。
日本語で何ができるようになりたいと思っていますか。

【講義】

留学生の学習ニーズと目的の多様性について、確認する。

日本語学校に在籍する留学生の「プロフィシエンシー」とは何かを確認し、基本となる理論を理解する。

<内容>

1. 留学生の「プロフィシエンシー」
2. Can-do, CEFR, JF-Standard, JLPT
3. 学習者中心、学習者主体の授業
4. i+1、最近接発達領域
5. プロフィシエンシーを育てる学習の評価

【活動】

1. 留学生の「プロフィシエンシーを育てる」には、どのような授業をすればいいか考える。
2. 授業の成果は、どのような評価をすればいいか考える。

コースデザイン概説

第2週

2時間目

【ねらい】

- ・ コースデザイン、カリキュラムを理解した上で、日々の授業実践ができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

＜キーワードの確認＞

- コースデザイン カリキュラム シラバス アセスメント バックワード・デザイン

＜考えよう／振り返ろう＞

1. あなたの学校にはどのようなコースがありますか。
2. あなたが担当しているクラスのカリキュラムはどのようなものですか。

【講義】

コースデザイン、カリキュラムの要件と日々の授業実践とがどう関連しているかを理解する。

＜内容＞

1. コースデザイン
2. 背景調査、ニーズ調査、ニーズ分析、レディネス調査、レディネス分析
3. シラバスデザイン
4. カリキュラムデザイン
5. 評価、コンサルティング
6. 学習者中心のコースデザイン

【活動】

- 1 自分が担当するクラスは所属機関のコースのどこに位置するか確認する。
- 2 コース全体の到達目標から見て、今担当しているクラスの今学期の学習目標は何か考える。
それをもとに、次回の授業の学習目標を考える。

授業計画

第2週

3時間目

【ねらい】

- ・ 年間授業計画をもとに、日々の授業計画を作成することができる。
- ・ 日々の授業の指導案を作成することができる。
- ・ チームティーチングを理解し、講師間で連携・協力をすることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 授業計画 指導案・教案 学習目標・ねらい 授業の流れ 教具・教材

<考えよう／振り返ろう>

1. 日々の授業で扱う科目と時間は決まっていますか。
どんな科目をどのぐらいやりますか。
それはだれが決めますか。
2. 日々の授業の進め方、指導方法は決まっていますか。それはどのようなものですか。
3. 授業の引き継ぎはどのようにしていますか。
4. チームティーチングのいいところと、問題点は何ですか。
5. 授業の前にどのような指導案を作成していますか。

【講義】

日々の授業計画の要件を理解する。

<内容>

1. 日本語学校の授業計画・指導案の書き方
2. チームティーチング

【活動】

1. 日々の授業の流れ（指導案）の中の、主教材の授業の流れ（指導案）を作成する。
2. ポスターツアーをして互いの指導案について考える。

※ 所属機関で使用しているメインの教材を持参

教授法

第3週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 留学生の「プロフィエンス」を育てるにはどのような授業活動がよいかを考えて、実践できる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 活動型授業 CLIL、TBLT 反転授業 協働学習 学習のピラミッド

<考えよう／振り返ろう>

1. 日々の授業活動では、どのような教授法を使っていますか。
2. 「わかる」授業と「できる」授業の違いは何でしょうか。

【講義】

留学生の「プロフィエンス」を育てるにはどうすればよいかを理解した上で、効果的な「協働学習」について考える。

<内容>

1. 教授法：「わかる」から「できる」へ
2. 授業：「わかる」から「できる」へ
3. 教師の役割

【活動】

自分が次に担当する授業の中で、「できる」ようにするためにどのような工夫をするかを考える。

留学生のための教材・教具リソース

第3週
2 時間目

【ねらい】

- ・ 現在使われている教材・教具リソースを把握し、ICT の可能性について理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 教材・教具 ICT Web 活用

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたの所属機関ではどのような教材・教具をどのタイミングでどのように使っていますか。
2. 学習者の興味関心を引く教材・教具にはどのようなものがありますか。
3. アニメやマンガ、ドラマや映画などはメディア教材として使えますか。
また、使えるとしたらどのように使えばいいでしょうか。
4. ICT はどのように使えるでしょうか。

【講義】

いくつかの教材・教具リソースについて、それらを効果的に使うタイミングや使用方法を理解する。

ICT を日本語教育の教室に持ち込むためのハードおよびソフト面の整備と、教師側の必要スキルについて理解する。

学習者の自律学習を支援するようなツールとその使用例を知り、どのような効果が期待できるか、また教室活動との連携について理解する。

<内容>

1. 日本語学校で使われている教材・教具リソースと、その長所短所
2. 留学生対象の日本語教育の教室で使える ICT
3. 進学目的の学習者が自習できる ICT

【活動】

1. 実際に使われている教材を一部持ち寄ってその長所・短所を考える。
2. いくつかのソフトを取り上げ、実際に何が学べるのかを考える。
3. 活用できそうな ICT について情報交換をする。

日本語の試験の統計処理

第3週
3時間目

【ねらい】

- ・ 現行の日本語の試験（日本語能力試験、日本留学試験、ビジネス日本語能力試験等）について知る。
- ・ それほどどのように統計処理されているのかを理解する。
- ・ 試験の統計処理を理解し、Excel を使って集計することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 正答率 識別力 平均 難易度 実施容易性 採点容易性

<考えよう／振り返ろう>

1. 学習者にとって“難しい”問題、“易しい”問題とは、どんな問題でしょうか。
2. 学習者の能力はどのように測れるのでしょうか。また、それは正確なものでしょうか。
3. 限られた時間内で効果的に実施できる試験とはどのようなものでしょうか。
4. 選択式解答と記述式解答では何が違うでしょうか。

【講義】

日本語能力試験では、どのように問題の難易度を測ろうとしているのか、検討する。

日本語学校で行うプレイスメントテスト、到達度を見るために行う試験等をどのように処理したら良いかを考える。また、処理の観点から、問題作成についても検討する。

<内容>

1. 正答率、識別力等と問題の難易度
2. 日常的に行う試験の統計的な処理

【活動】

1. 日本語能力試験の問題を解いてみて、何が問われているのかを確認する。
2. Excel を使い、日常的に行う試験の簡単な統計処理について実習する。

※ノートパソコン持参

目的・対象別日本語教育

第4週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 多様化する日本語学習者のニーズを把握し、どのような日本語教育が必要か理解する。
- ・ 留学生の日本語学習に関するニーズを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- ツール コンテンツ アカデミックジャパニーズ

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたの所属機関にはどのような目的で学習している学生がいますか。
2. その学生に必要な日本語力とはどのようなものでしょうか。

【講義】

留学生の学習ニーズと目的の多様性について、再確認する。

<内容>

1. 留学生の学習ニーズと目的
2. 留学生の進学先で必要となる日本語力
3. 留学生の就職先で必要となる日本語力

【活動】

1. 進学先や就職先で必要な日本語力をつけるために必要なことは何か考える。

教室・言語環境の設定

第4週
2 時間目

【ねらい】

- ・ 学習者のプロフィシエンシーを育てるための教室活動を行うには、どのような教室環境を整えればよいか理解する。
- ・ クラス運営の基本を理解した上で、クラス運営ができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 言語環境 教室活動 学習環境デザイン ICT 教室デザイン

<考えよう／振り返ろう>

1. 「教室」はどんなところでしょうか。どうあるべきでしょうか。
2. 「言語環境」とはどのようなことでしょうか。
3. あなたが授業をするとき、机やイスはどのように配置していますか。

【講義】

学習者のインターアクションと教室環境の関連、教師がファシリテーターになるための環境設定について理解する。
クラス運営の要件を理解する。

<内容>

1. 「教室」はどんな場所か
2. 学習者が主体的に動く教室活動
3. オーセンティック・ラーニング
4. 「言語環境」の設定
5. 出席管理・学習管理・成績評価
6. 学習者のコミュニティづくり

【活動】

1. クラスを効果的に運営する環境づくりを話し合う。

論文・議論の指導

第4週

3 時間目

【ねらい】

- ・ 小論文の指導および議論の指導をする場合に、教師が知っているべきこと、考えるべきことは何であるかが分かる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- ディスカッション ディベート クリティカル・シンキング アウトライン
- 論文の3つの構成要素

<考えよう／振り返ろう>

1. レポートや小論文の書き方の指導を行ったことがありますか。ある場合は、どんな点が難しいと感じましたか。
2. 議論の指導を行ったことがありますか。ある場合は、どんな点が難しいと感じましたか。

【講義】

議論の形態（ディスカッション、ディベート等）の特徴について知る。進学等に必要の小論文を取り上げ、その構成や作成の手順について理解する。

<内容>

1. ディスカッションとは何か
2. ディベートとは何か
3. 小論文を構成する3つの要素
4. 小論文の作成手順

【活動】

1. ディスカッション、小論文の作成という流れの授業を行うという設定で、テーマと目標を設定し、どのような流れで授業を進めればよいか「学び」の計画案を作成してみる。

初級演習 概要

【初級のねらい】

- ・ 他の級と初級の相違点（学習者、教材等）を理解できる。
- ・ 初級から上級までの「話す」ことの指導の流れを理解できる。
- ・ 初級のクラスにおいて、効果的な「話す」授業を行うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- N4 レベル、N5 レベル
- 発音の可視化
- ミムMEM練習
- パターンプラクティス
- MMC

初級演習 対象別指導法

第5週
1 時間目

【ねらい】

- ・ 初級から上級までの「話す」力を伸ばす授業について理解する。
- ・ 初級の「話す」ことの授業の流れや指導のポイントを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 初級というレベルをどのように認識していますか。
2. あなたの所属機関では、どのような「初級」の授業をしていますか。

【講義】

初級レベル(N5とN4)の学習内容と学習達成目標について確認し、代表的な教科書の内容構成について考える。

<内容>

1. 「話す」力の初級から上級までのレベル
2. 初級レベルの代表的な教科書
3. 初級レベルの「話す」力をつけるための練習

【活動】

初級レベルの「話す」力をつけるための練習の展開を考える。

初級演習 評価法

第5週
2時間目

【ねらい】

- ・ 初級レベルで期待される「話す」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたの所属機関では、初級レベルの「話す」力をどのように評価していますか。

【講義】

初級レベルの「話す」力はどのようなものを理解する。

どのような Can-do が設定できるかを理解する。

<内容>

1. Can-do による評価
2. JF 日本語教育スタンダード準拠のロールプレイトテスト評価

【活動】

1. 初級のロールプレイトテストを実施して、評価する。

初級演習 指導案作成

第5週
3時間目

【ねらい】

- ・ 初級レベルの「話す」力をつけるための授業の指導案（「学び」の計画案）を作成することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「話す」力をつけるためにどのようなことを考えて指導案を作成していますか。
2. 指導案にどのような項目を設定していますか。

【講義】

「話す」練習の組み立てについて理解する。

<内容>

1. 学習者の想定
2. 学習者の目線に立った目標・場面・練習方法の設定
3. 学習者同士のインターアクションを中心とした授業デザイン

【活動】

1. 模擬授業の指導案（「学び」の計画案）を作成する。

初級演習 教材作成

第5週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 「話す」力をつける活動の授業ができるような指導案（「学び」の計画案）に即した教材を準備することができる。
- ・ 1 の教材を効果的に使うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

1. 作成した指導案（「学び」の計画案）をもとに教材・教具を準備する。

【活動】

1. 準備した教材・教具が自分の作成した指導案（「学び」の計画案）に即しているか確認する。
2. 指導案（「学び」の計画案）に基づいた模擬授業の流れを確認する。

初級演習 教室活動（1）、（2）

第6週
2-3 時間

【ねらい】

- ・ 作成した指導案（「学び」の計画案）・教材をもとに模擬授業を行うことができる。
- ・ 模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。

【活動】

1. 模擬授業実施者：実際の学習者に対して模擬授業を行う。
模擬授業観察者：模擬授業を観察して、気づきを記録する。
2. 模擬授業実施者および模擬授業観察者の気づきを共有し、模擬授業における学習者の「学び」の成果について考える。

初中級演習 概要

第7週
第8週

【初中級のねらい】

- ・ 他の級と初中級の相違点（学習者、教材等）を理解できる。
 - ・ 初級から上級までの「書く」ことの指導の流れを理解できる。
 - ・ 初中級のクラスにおいて、効果的な「書く」授業を行うことができる。
-

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- ルーブリック バックワード・デザイン アウトライン ブレインストーミング ピア・レスポンス
-

初中級演習 対象別指導法

第7週
1 時間目

【ねらい】

- ・ 初級から上級までの「書く」力を伸ばす授業について理解する。
- ・ 初中級の「書く」ことの授業の流れや指導ポイントを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「初中級」というレベルをどのように認識していますか。
2. あなたの所属機関では、どのような「初中級」の授業をしていますか。
3. 「初中級」で「書く」力をどのように指導し、評価していますか。

【講義】

初級から上級までの「書く」力を伸ばすためにどのような授業をすればいいか、全体像と授業の流れを理解する。

<内容>

1. 「書く」力の初級から上級までのレベル
2. 「書く」力を伸ばすための授業の進め方
3. 文字の指導

【活動】

1. 文字の指導の仕方を考える。
2. 作文指導の流れを考える。

初中級演習 評価法

第7週
2 時間目

【ねらい】

- ・ 初中級レベルで期待される「書く」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたの所属機関では、初中級レベルの「書く」力をどのように評価していますか。

【講義】

「書く」力の評価にはどのようなものがあるか、そして、評価に必須であるルーブリックの使い方を理解する。

<内容>

1. 「書く」力の評価
2. ルーブリック

【活動】

1. 実際の学習者の作文をルーブリックを使い評価してみる。
2. 模擬授業で使用する作文のルーブリックを作成する。

初中級演習 指導案作成

第7週
3時間目

【ねらい】

- ・ 初中級レベルの「書く」力をつけるための授業の指導案（「学び」の計画案）を作成することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「書く」力をつけるためにどのようなことを考えて指導案を作成していますか。
2. 漢字の指導をどのような流れで行っていますか。

【講義】

バックワード・デザインによる「書く」力をつけるための授業の組み立てを理解する。

<内容>

1. バックワード・デザイン

【活動】

1. 模擬授業の指導案（「学び」の計画案）を作成する。

初中級演習 教材作成

第8週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 「書く」力をつける活動の授業ができるような指導案に即した教材を準備することができる。
- ・ 1 の教材を効果的に使うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

1. 作成した指導案（「学び」の計画案）をもとに教材・教具を準備する。

【活動】

1. 準備した教材・教具が自分の作成した指導案（「学び」の計画案）に即しているか確認する。
2. 指導案（「学び」の計画案）に基づいた模擬授業の流れを確認する。

初中級演習 教室活動（１）、（２）

【ねらい】

- ・ 作成した指導案（「学び」の計画案）・教材をもとに模擬授業を行うことができる。
 - ・ 模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。
-

【活動】

1. 模擬授業実施者：実際の学習者に対して模擬授業を行う。
模擬授業観察者：模擬授業を観察して、気づきを記録する。
2. 模擬授業実施者および模擬授業観察者の気づきを共有し、模擬授業における学習者の「学び」の成果について考える。

中級演習 概要

【中級のねらい】

- ・ 他の級と中級の相違点（学習者、教材等）を理解できる。
- ・ 中級から上級までの「聞く」ことの指導の流れを理解できる。
- ・ 中級のクラスにおいて、効果的な「聞く」授業を行うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 「聴解」、「聴読解」 シャドーイング ターン 発話意図

中級演習 対象別指導法

第9週
1 時間目

【ねらい】

- ・ 初級から上級までの「聞く」力を伸ばす授業について理解する。
- ・ 中級の「聞く」ことの授業の流れや指導ポイントを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 中級というレベルをどのように認識していますか。
2. あなたの所属機関では、どのような「中級」の授業をしていますか。
3. 「中級」で「聞く」力をどのように指導し、評価していますか。

【講義】

中級レベル(N2)の学習内容と学習達成目標について、確認する。

「聞く」力をつけるための授業と評価を理解する。

実際の教材を参考に、どのように使うことが効果的とされているのかを理解する。

<内容>

1. 「聞く」力の初級から上級までのレベル
2. 中級レベルの代表的な教科書
3. 中級レベルの教材作成

【活動】

1. 中級レベルの聴解の教材と聞かせ方について考える。
2. 中級レベルの聴解の授業の進め方を考える。

中級演習 評価法

第9週
2 時間目

【ねらい】

- ・ 中級レベルで期待される「聞く」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. あなたの所属機関では、中級レベルの「聞く」力をどのように評価していますか。

【講義】

聴解の授業について、その意義や意図を確認し、学習者の聴解力の判定や評価の方法について考える。

<内容>

1. 聴解の評価
2. 聴解の授業のカリキュラム
3. 聴解のテストと評価

【活動】

1. 「聞く」力の評価方法を検討する。

中級演習 指導案作成

第9週

3 時間目

【ねらい】

- ・ 中級レベルの「聞く」ための授業の指導案（「学び」の計画案）を作成することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「聞く」力をつけるためにどのようなことを考えて指導案を作成していますか。

【講義】

授業内で聴解教材を聞かせる目的と、教材やその扱い方が適切かどうかを理解する。また、学習者の回答と理解度の評価を考える。

<内容>

1. 聴解教材を用いる際の指導案のポイント
2. 教材作成の方法
3. 解答と理解度

【活動】

1. 指導案（「学び」の計画案）・教材を作成する。
2. 受講者同士のフィードバックにより改善する。

中級演習 教材作成

第10週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 「聞く」力をつける活動の授業ができるような指導案（「学び」の計画案）に即した教材を準備することができる。
- ・ 1 の教材を効果的に使うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

＜考えよう／振り返ろう＞

1. 作成した指導案（「学び」の計画案）をもとに教材・教具を準備する。

【活動】

1. 準備した教材・教具が自分の作成した指導案（「学び」の計画案）に即しているか確認する。
2. 指導案（「学び」の計画案）に基づいた模擬授業の流れを確認する。

中級演習 教室活動（１）、（２）

第 10 週
2-3 時間目

【ねらい】

- ・ 作成した指導案（「学び」の計画案）・教材をもとに模擬授業を行うことができる。
- ・ 模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。

【活動】

1. 模擬授業実施者：実際の学習者に対して模擬授業を行う。
模擬授業観察者：模擬授業を観察して、気づきを記録する。
2. 模擬授業実施者および模擬授業観察者の気づきを共有し、模擬授業における学習者の「学び」の成果について考える。

上級演習 概要

第11週
第12週

【上級のねらい】

- ・ 他の級と上級の相違点（学習者、教材等）を理解できる。
- ・ 初級から上級までの「読む」ことの指導の流れを理解できる。
- ・ 上級クラスにおいて、効果的な「読む」授業を行うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- スキミング・スキヤニング・精読
- 推論
- トップダウン・ボトムアップ
- 前作業・本作業・後作業
- ピア・リーディング

上級演習 対象別指導法

第11週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 初級から上級までの「読む」力を伸ばす授業について理解する。
- ・ 上級までの「読む」ことの授業の流れや指導ポイントを理解する。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 上級というレベルをどのように認識していますか。
2. あなたの所属機関では、どのような「上級」の授業をしていますか。
3. 「読む」力を養成するためには、どのような指導が必要だと思えますか。

【講義】

初級から上級までの「読む」能力について確認する。文章を理解するとはどういうことなのか、読解の過程について理解する。上級で求められる読みとはどのようなものなのかを読解過程と関連付けて理解する。

<内容>

1. 「読む」力の初級から上級までのレベル
2. 文章理解のプロセス
3. 上級で求められる「読み」

【活動】

1. 「読む」の各レベルの能力記述を確認する。
2. 初級から上級までの教科書を分析する。

上級演習 評価法

第11週
2 時間目

【ねらい】

- ・ 上級レベルで期待される「読む」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「読む」力をどのように評価したらよいと思いますか。

【講義】

読解の評価方法、すなわち文章をどのくらい理解したかを測定する方法について理解する。

<内容>

1. 読解の評価
2. 読解テストの出題の形式

【活動】

1. 「読む」力の評価方法を検討する。

上級演習 指導案作成

第11週
3 時間目

【ねらい】

- ・ 上級レベルの「読む」ための授業の指導案（「学び」の計画案）を作成することができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<考えよう／振り返ろう>

1. 「読む」力を養成するために、どのようなことを考えて指導案を作成していますか。

【講義】

「読む」授業をどのように計画すればよいのかを理解する。読解ストラテジーにはどのようなものがあるのかを知る。読解授業を行う方法について理解する。

<内容>

1. 「読む」授業の計画
2. 読解ストラテジー
3. 読解授業の方法

【活動】

1. 模擬授業の指導案（「学び」の計画案）を作成する。

上級演習 教材作成

第12週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 「読む」力をつける活動の授業ができるような指導案（「学び」の計画案）に即した教材を準備することができる。
- ・ 1 の教材を効果的に使うことができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

1. 作成した指導案（「学び」の計画案）をもとに教材・教具を準備する。

【活動】

1. 準備した教材・教具が自分の作成した指導案（「学び」の計画案）に即しているか確認する。
2. 指導案（「学び」の計画案）に基づいた模擬授業の流れを確認する。

上級演習 教室活動（1）、（2）

【ねらい】

- ・ 作成した指導案（「学び」の計画案）・教材をもとに模擬授業を行うことができる。
 - ・ 模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。
-

【活動】

1. 模擬授業実施者：実際の学習者に対して模擬授業を行う。
模擬授業観察者：模擬授業を観察して、気づきを記録する。
2. 模擬授業実施者および模擬授業観察者の気づきを共有し、模擬授業における学習者の「学び」の成果について考える。

経験の振り返りや議論等を通じた内省力

第13週

1 時間目

【ねらい】

- ・ 自分の授業を振り返り、問題点に気づき、それを改善するにはどうしたらいいかを考え、実践し、授業を改善していくことができる。
- ・ 研修や OJT、さまざまな学びや教師の協働的な議論を通して、自己研修をすることができる。

【この授業に臨む前に必ずしておくこと】

<キーワードの確認>

- 自己評価、相互評価
- PDCA サイクル
- 自己研修力
- アクション・リサーチ
- 日本語教育学会、日本語学校教育研究大会

<考えよう／振り返ろう>

1. 自分の授業を振り返って、できるようになったこと、不十分だと思うことは何ですか。
2. 本研修を振り返って、学んだこと、気づいたこと、自分の課題だと思うことは何ですか。

【講義】

自己評価、自己研修を行うための基礎的な知識を理解する。

<内容>

1. PDCA サイクル、PDSA サイクル
2. 自己評価、相互評価
3. 自己研修力
4. 日本語教育学会、日本語学校教育研究大会、文化庁日本語教育大会

【活動】

1. 研修後に行う OJT の課題を考える。
2. 本科目をもとに、本研修の成果発表の PPT スライドを修正する。

発表（1）、（2）

【ねらい】

- ・ この研修を振り返ってお互いの成果を共有し、各現場に戻って生かすことができる。

【活動】

1. 研修を振り返って一人ずつ発表を行い、内容を共有し、議論する。